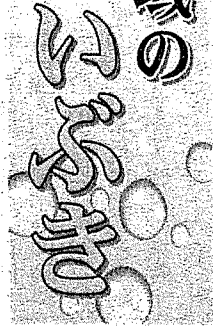


# 地域の



NPO編 ③

不登校の子供たちが学ぶフリースクール「ライズ学園」(つくば市谷田部)を運営する。元中学校教師の小野村哲代表(画)が、教師を辞め、二〇〇〇年十一月に設立した。

学習障害(LD)や注意欠陥多動障害(ADHD)児の教育に力を入れていることで知られる。中学校の教壇で英語を教えていたとき、LD児の教育に関心を持った。LD児は、数学が百点満点でも、英語はbとdを区別するのに苦労するなど、何気ないところでつまづいてしまう。「すばらしい能力を持っていて



小野村哲代表

## 学習障害児などに独自の教育

### リヴォルヴ学校教育研究所

(つくば市)



# 「地域立の学校」目指したい

も、学校を変えていく方法があるはず」と、設立を決意した。

現在、小学三年生から高校三年生まで、市内外

の約二十人が学んでいる。授業は

家、定年退職した元教師、筑波大学で心理学を

学ぶ学生など。パソコンなどは専門のインストラクターが指導する。

師、筑波大学で心理学を

の時間割がある。授業は子どもたち一人ひとりの特性に着目しながら、少人数で指導。「bとdの区別ができなかった子ども、教え方で違ってくる

子どもたちは、全員が毎日、学園に通ってくる

学校。公立でも私立でもなく、地域全体で子どもたちを育てていこうという学校だ。

一方「学校が再生するためにには地域の再生が欠かせない」と指摘する。

る」という。

音楽や体育、家庭科の授業もある。市内の別のNPO法人に大鼓演奏を習ったり、市の体育館や公民館の調理室を借りてスポーツや料理も。市内の研究所を見学したり、ナン狩りなどの遠足もある。

「子どもたちが個性を發揮できるような環境づくりをサポートし、仮に学校に戻れなかったとしても、ここで元気を付けて社会に参加してほしい」と小野村代表。

目指しているのは「地域立(ちいさひり)の」

「勉強が嫌いだから大工さんになる」「お寿司屋さんになる」という子もいる。そういう子が大人になって、地域でお店を出し、誇りをもって生きていけるためには、地域の活性化が必要。ただ学校だけを変えられないわけではない」

将来、地域の人たちが学校運営委員会をつかって教師を選んだり、地域通貨をつまぐ使いこなして、地域経済の活性化と合わせて学校を支えてもらえらるようになることがライズ学園の夢だ。

ホームページアドレスは <http://www.rise.gr.jp> 問い合わせは電話029-856-8143